

1970年 大会記録

国際

◇ポディブニー国際大会＝グレコローマン（ソ連・ロストフドン）

▼48kg級 石田和春（小玉合名）＝6位、▼52kg級 杉山三郎（三重・松阪工高教）＝4位、▼57kg級 山本郁栄（日体大OB）＝5位

◇全米選手権（4月16～18日、米国・リンカーン）

《フリースタイル》▼57kg級 八田正朗（米国在住）＝2位、三寺繁規（専大）＝4位
▼74kg級 赤間勝（東北学院大）＝四失、吉田勝正（ポートランド大）＝四失

《グレコローマン》▼57kg級 八田正朗（米国在住）＝、石井康夫（ ）＝優勝、万政道（ ）＝5位、▼62kg級＝斉藤久男（ ）＝5位、梅田修二（ ）＝5位

◇世界選手権（7月4～11日、カナダ・エドモントン）

《グレコローマン》▼48kg級 南治也（国土館大）＝四失、▼52kg級 杉山三郎（三重・松阪工高教）＝2位、▼57kg級 山本郁栄（日体大）＝四失、▼62kg級 藤本英男（日体大教）＝優勝、▼68kg級 田上高（鹿児島県庁）＝3位、▼74kg級 永野要祐（国土館大）＝三失、▼82kg級 開健次郎（自衛隊）＝5位、▼90kg級 谷公市（国土館大）＝三失、▼100kg級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）＝三失、▼100kg以上級＝派遣なし

《フリースタイル》▼48kg級 梅田昭彦（米盛商事）＝2位、▼52kg級 尾川敏幸（中大）＝三失、▼57kg級 柳田英明（明大OB）＝優勝、▼62kg級 阿部巨史（朝霞ク）＝2位、▼68kg級 林富夫（向陽高教）＝5位、▼74kg級 吉田敏忠（アイシン精機）＝四失、▼82kg級 佐々木龍雄（自衛隊）＝2位、▼90kg級 鎌田誠（中大）＝3位、▼100kg級＝派遣なし、▼100kg以上級＝派遣なし

◇アジア大会（12月10～12日、タイ・バンコク）

《フリースタイル》▼48kg級 松橋義行（青森・八戸電波工高）＝2位、▼52kg級 加藤喜代美（専大）＝2位、▼57kg級 柳田英明（明大OB）＝優勝、▼62kg級 阿部巨史（自衛隊）＝2位、▼68kg級 和田喜久夫（明大）＝優勝、▼74kg級 吉田敏忠（アイシン精機）＝優勝、▼82kg級 佐々木龍雄（自衛隊）＝優勝、▼90kg級 谷公市（国土館大）＝3位、▼100kg級 矢田静雄（和歌山・粉河高教）＝2位、▼100kg以上級 磯貝頼秀（早大）＝2位

※フリースタイルのみ

国内

◇全国高校選抜大会（4月5日、新潟・新潟市体育館）

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工（初）、[2] 新潟・新潟商、[3] 秋田・五城目、新潟・北越商

◇世界選手権代表選考会（5月7～9日、東京・中央区体育館）

《フリースタイル》▼48kg級 梅田昭彦（米盛商事）、▼52kg級 尾川敏幸（中大）、▼57kg級 柳田英明（明大OB）、▼62kg級 阿部巨史（朝霞ク）、▼68kg級 林富夫（向陽高教）、▼74kg級 吉田敏忠（アイシン精機）、▼82kg級 佐々木龍雄（自衛隊）、▼90kg級 鎌田誠（中大）、▼100kg級・100kg以上級 滝沢信也（クラウス）

《グレコローマン》▼48kg級 南治也（国士館大）、▼52kg級 杉山三郎（三重・松阪工高教）、▼57kg級 山本郁栄（日体大）、▼62kg級 藤本英男（日体大教）、▼68kg級 田上高（鹿児島県庁）、▼74kg級 永野要祐（国士館大）、▼82kg級 開健二郎（自衛隊）、▼90kg級 谷公市（国士館大）、▼100kg級・100kg以上級 矢田静雄（和歌山・粉川高教）

◇西日本学生春季リーグ戦（5月24～26日、大阪府立体育会館別館）

《順位》[1] 近大（15季ぶり2度目）、[2] 関学大、[3] 福岡大、[4] 同志社大、[5] 関大、[6] 名城大

◇東日本学生リーグ戦（5月28～30日、東京・駒沢体育館）

《順位》[1] 専大（2年連続2度目）、[2] 国士大、[3] 日大、[4] 早大、[5] 日体大、[6] 東洋大、[7] 中大

◇東日本学生春季新人戦（6月18～20日、東京・世田谷区総合体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 高橋譲（専大）、▼52kg級 伊藤一雅（早大）、▼57kg級 佐竹秀俊（専大）、▼62kg級 斎藤勝彦（日大）、▼68kg級 和田喜久夫（明大）、▼74kg級 山口和男（日体大）、▼82kg級 小松崎六合利（中大）、▼90kg級 佐藤貞雄（大東大）、▼90kg以上級 磯貝頼秀（早大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 池辺一郎（中大）、▼52kg級 中本広樹（日大）、▼57kg級 中田健（日体大）、▼62kg級 前田忠文（拓大）、▼68kg級 長谷川和彦（日体大）、▼74kg級 桜井藤雄（日体大）、▼82kg級 茂木優（国士館大）、▼82kg以上級

佐藤貞雄（大東大）

◇西日本学生選手権（6月26～28日、大阪府立体育会館別館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 長尾勇（同志社大）、▼52kg級 小崎光也（近大）、▼57kg級 木野良則（近大）、▼62kg級 菅沼啓安（関学大）、▼68kg級 中谷正（近大）、▼74kg級 橋本良雄（近大）、▼82kg級 斐柁杓（近大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 長尾勇（同志社大）、▼52kg級 小崎光也（近大）、▼57kg級 西尾秀明（桃山学院大）、▼62kg級 高木茂（同志社大）、▼68kg級 官幣領秀和（近大）、▼74kg級 中島直美（関学大）、▼82kg級 林和信（同志社大）

◇全日本社会人選手権（6月27～28日、東京・岸記念体育館）

《実業団対抗戦優勝》京浜土地、《クラブ対抗戦優勝》木口道場、《官公庁対抗戦優勝》自衛隊A

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 鈴木隆一（YMCA）、▼52kg級 石田和春（小玉合名）、▼57kg級 中島俊美（岐阜県協会）、▼62kg級 一ノ関敏昭（土崎ク）、▼68kg級 渡辺長武（電通）、▼74kg級 山縣盛治（長崎ク）、▼82kg級 伊藤勝春（京浜土地）、▼90kg級 伊藤義人（長崎県教）、▼100kg級 平塚博（警視庁）、▼100kg以上級＝出場なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg級＝出場なし、▼52kg級 渡辺正明（三和銀行）、▼57kg級 沢内隆夫（新坂ヘルス・ク）、▼62kg級 野田秀彦（岐阜県協会）、▼68kg級 加藤隆三（和歌山県教委）、▼74kg級 岡唯勝（徳島・池田高教）、▼82kg級 藤井照雄（群上紡績）、▼90kg級 三戸豊治（警視庁）、▼100kg級＝出場なし、▼100kg以上級＝出場なし

◇インターハイ（8月5～8日、静岡・焼津市水産高）

《学校対抗戦》[1] 青森・八戸工（4年ぶり2回目）、[2] 秋田・五城目、[3] 岩手・宮古水産、和歌山・粉河

《個人戦優勝者》▼48kg級 松橋義行（青森・八戸電波工）、▼52kg級 佐々木禎（静岡・稲取）、▼56kg級 安田武美（秋田・秋田商）、▼60kg級 米田裕道（青森・八戸工）、▼65kg級 斉藤実（青森・八戸電波工）、▼70kg級 伊藤良和（秋田・秋田工）、▼75kg級 石田昭（新潟・新潟東工）、▼75kg以上級 栄勇（鹿児島・鹿児島商工）

◇全日本学生選手権（9月6～8日、東京・駒沢体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 浅場和男（東洋大）、▼52kg級 加藤喜代美（専大）、▼57kg級 宮明久（東洋大）、▼62kg級 原田政光（日大）、▼68kg級 和田喜久夫（明大）、▼74kg級 長谷川恒夫（早大）、▼82kg級 安部段一（日大）、▼90kg級 谷公市（国士舘大）、▼90kg以上級 磯貝頼秀（早大）

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 松田敏夫（日体大）、▼52kg級 藤浦勝信（日体大）、▼57kg級 笹野広（日体大）、▼62kg級 大石八郎（日体大）、▼68kg級 中野由明（日体大）、▼74kg級 伊達 治一郎（国士舘大）、▼82kg級 安井慎一（中大）、▼90kg級 谷公市（国士舘大）、▼90kg以上級 磯貝頼秀（早大）

◇国体（10月11～14日、岩手・宮古水産高、宮古商）

《一般フリースタイル優勝者》▼48kg級 梅田昭彦（鹿児島）、▼52kg級 加藤喜代美（北海道）、▼57kg級 柳田英明（秋田）、▼62kg級 菅沼啓安（兵庫）、▼68kg級 和田喜久雄（新潟）、▼74kg級 出河満男（埼玉）、▼82kg級 佐藤明弘（埼玉）、▼90kg級 伊藤義人（長崎）、▼100kg級 佐々木龍雄（埼玉）、▼100kg以上級 磯貝頼秀（千葉）

《一般グレコローマン優勝者》▼48kg級 石田和春（秋田）、▼52kg級 杉山三郎（三重）、▼57kg級 七尾秀樹（埼玉）、▼62kg級 野田秀彦（岐阜）、▼68kg級 小林武（埼玉）、▼74kg級 岡唯勝（徳島）、▼82kg級 殿村明大（福岡）、▼90kg級 谷公市（大阪）、▼100kg級 矢田静雄（和歌山）、▼100kg以上級 服部勤（岐阜）

《高校フリースタイル優勝者》▼48kg級 新島博正（栃木）、▼52kg級 鷲谷雪雄（秋田）、▼56kg級 安田武美（秋田）、▼60kg級 小西弘幸（北海道）、▼65kg級 平松義高（鹿児島）、▼70kg級 伊藤良和（秋田）、▼75kg級 大里寿郎（茨城）、▼81kg級 栄勇（鹿児島）、▼87kg級 丸山博之（栃木）、▼87kg以上級 飯野祐邦（群馬）

《高校グレコローマン優勝者》▼48kg級 小野正紀（秋田）、▼52kg級 宇野勝彦（三重）、▼56kg級 遠藤正樹（山形）、▼60kg級 吉田幸八郎（鹿児島）、▼65kg級 遠塚谷淡（石川）、▼70kg級 樋浦靖夫（新潟）、▼75kg級 田端英夫（和歌山）、▼81kg級 田中幹弘（秋田）、▼87kg級 吉田幸雄（青森）、▼87kg以上級 城戸昇（福岡）

◇全日本選手権（11月1～3日、九州学院大体育館）

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 松橋義行（青森・八戸電波工高）、▼52kg級 加藤喜代美（専大）、▼57kg級 柳田英明（明大OB）、▼62kg級 阿部巨史（自衛隊）、

▼68kg級 和田喜久夫(明大)、▼74kg級 吉田敏忠(アイシン精機)、▼82kg級 佐々木竜雄(自衛隊)、▼90kg級 谷公市(国士大)、▼100kg級 磯貝頼秀(早大)、▼100kg以上級=出場なし

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 松田敏夫(日体大)、▼52kg級 杉山三郎(三重・松阪工高教)、▼57kg級 山本郁栄(日体大OB)、▼62kg級 藤本英男(日体大教)、▼68kg級 田上高(鹿児島県庁)、▼74kg級 永野要祐(国士大)、▼82kg級 茂木優(国士大)、▼90kg級 谷公市(国士大)、▼100kg級 矢田静雄(和歌山・粉河高教)、▼100kg以上級=出場なし

◇全日本学生王座決定戦(11月17~18日、東京・世田谷区立体育館) =決勝成績

専大○ [6-3] ●日大

※専大は初優勝

◇東日本グレコローマン対抗戦(9月13日、日体大) =決勝成績

日体大○ [6-2] ●国士館大

※日体大は4年連続4度目の優勝

◇西日本学生秋季リーグ戦(11月20~22日、大阪府立体育会館別館ほか)

《順位》[1] 近大(2季連続3度目)、[2] 福岡大、[3] 関大、[4] 関学大、[5] 同志社大、[6] 中京大

◇東日本学生秋季新人戦(11月27~29日、東京・青少年総合センター)

《フリースタイル優勝者》▼48kg級 福田秀人(日体大)、▼52kg級 渥美敏範(日大)、▼57kg級 常川治久(拓大)、▼62kg級 福島芳樹(中大)、▼68kg級 田中忠(東洋大)、▼74kg級 木村清人(東洋大)、▼82kg級 佐藤貞雄(大東大)、▼90kg級 吉田光雄(専大)、▼90kg以上級 疋田周二(拓大)

《グレコローマン優勝者》▼48kg級 富野(日大)、▼52kg級 高橋譲(専大)、▼57kg級 中本広樹(日大)、▼62kg級 宮原照彦(日体大)、▼68kg級 桜井藤雄(日体大)、▼74kg級 吉永文夫(日体大)、▼82kg級 伊沢厚(法大)、▼90kg級 吉田光雄(専大)、▼90kg以上級 西山(拓大)